

令和4年度 江戸川区立新堀小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	進んで考え 学び合う子 心ゆたかで 思いやりのある子 健康で たくましい子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・子供が夢や希望の実現に向かって生き生きと活動する学校 ・最後までやり通し、自他を尊重し、何事にもチャレンジし、豊かな感性をもつ子供 ・子供に対しての情熱や向上心をもち続け、組織の一員として協働する教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> 体育の指導法を研究し、授業改善を図ることにより、教師が指導法の基礎を身に付け、体育授業の充実を図れた。 コロナ禍ではあったが、感染対策を行うことで、児童にとって必要なことを行うことができた。 <課題> しなやかでたくましい心と体の育成に向け、自分の気持ちや行動をコントロールする力が必要である。 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、問題解決型の授業を多く取り入れていくことが必要である。		

教育委員会 重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた 改善策		
					取 組	成 果	評価	コメント			
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・朝学習の実施。苦手項目による学年統一補習の実施。 ・連携プログラムに基づいて授業観察を行い、改善を図る。	・東京ベシーナリル診断テストで全学年正答率10%UP。 ・小中連携を意識して授業づくりをした教師…90%以上	A	B	B	・朝学習を習慣化したり、苦手項目の補習学習を今後も続けてほしい。 ・自分の考えをもつことが大切である。 ・小中連携を継続してほしい。	・ベシーナリル診断テストを活用し、目標達成を目指す。 ・振り返りの時間を設定し、自分の考えをしっかりとらせる。 ・小中連携を意識した授業を展開する。		
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	・資料の収集の仕方を年度当初に指導し、探究的な学習を目的とした授業を各学年で1回以上実施する。 ・図書館の蔵書の整理・分配比率を意識した本の選定、準備室の活用を実施する。	・全学年で資料収集の仕方を教え、学校図書館にて探究的な学習の授業を実施。100% ・分配比率の向上(区の目標に近づける)	A	B	B	・読書科において、学年ごとの年間計画に基づき実施している。 ・中央図書館から図書館支援員が来校する(週1回)。本校の図書館司書教員と連携して、蔵書の整理や廃棄本の処理を進めている。図書館の充実につなげているところである。	・調べ学習の際に一人一人の探したい資料が適切に間に合っているのか。 ・読書離れを耳にするなか、活字に親しむ姿勢が良い。 ・図書館を活用できてよい。	・各学年の教科と連携させることで、読書を通じた探究的な学習をさらに充実させる。 ・様々な学習場面を通して、自己学習能力を伸ばしていく。	
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・校内研究を体育で実施。 ・中休みの校庭遊びの励行。	運動を好きな児童80%以上。 中休みの校庭遊び90%以上	A	A	A	・教育課題実践推進校としての体育科の研究を継続したことにより、授業中や休み時間を通して、主体的に運動できる児童が増えた。 ・外遊びはほぼ達成できた。	・コロナ禍でやれることが制限された中、なわとびなど継続できていた。子供たちが楽しく運動していた。	・運動遊びを充実させる。 ・継続して新堀タイムの内容を充実させる。	
	デジタル機器の活用	・ICT機器の計画的な活用 ・家庭学習での積極的な活用を啓蒙	・ICTを活用した授業を実施 ・ipadを日常的に活用	・ICT活用を1日に1回以上 ・家庭学習でe-ライブラリアドバンスを活用する児童が80%以上	A	B	A	・タブレットは全学年積極的に活用している。 ・e-ライブラリアドバンスの活用が80%を下回った。	・積極的に活用できていてよい。 ・タブレットの活用を今後も促してほしい。	・朝学習や宿題でタブレットを積極的に活用する。	
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	研修の実施。教員同士による授業観察の実施。	外国語(活動)が楽しいと感じる児童80%以上	B	B	B	・楽しいと感じる児童80%は達成できた。 ・交換授業により、担任が行う外国語教育を学ぶことができた。	・外国語に触れられる日常をつくれるようにしてほしい。	・教員同士の授業参観を計画に入れる。	
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・自他を尊重する意識と態度を慎重する(道徳や特別活動等) ・4、5、6年生による「心の体操」の実施。 ・必要に応じて関係機関を積極的に活用する。	・不登校傾向のある児童のうち半数を改善する。 いじめの解消100% ・事後アンケートで事前アンケートから数値が上がった児童80%以上。 ・他機関との連携の実施	A	C	B	・ふれ合い月間等の取組を通して相手の心大切に定期的に指導した。 ・4、5、6年の「心の体操」が多く児童に定着し、気持ちの安定に繋がることができた。 ・関係機関を積極的に活用するなどの手立てをとっているが、不登校傾向の改善がなかなか進んでいない。	・心の体操は良い取組である。 ・SSW・児相との密な連携を継続し、不登校傾向の改善につなげる。 ・いじめがなくなるよう引き続き、子供たちの小さな変化を見逃さないでほしい。	・SSW・児相との密な連携を継続し、不登校傾向の改善につなげる。 ・相手の思いの育成や気持ちや不安定させる活動を継続する。	
	知識・技能を習得し、活用する能力の育成	問題解決的な学習を取り入れ、自己学習力の定着を図る	問題提示の工夫、解決の見通し、振り返りの実施	児童の自己学習力が向上したと感じる教員60%以上	A	B	B	・問題解決的な学習活動を取り入れ、学習過程や学習ノートを工夫することで、児童の自己学習力が向上してきている。	・学習内容の定着は家庭環境も大きい要素ではないか	・OJTを充実させ、授業力向上につなげる。	
	特別支援教育の充実	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・校内委員会月1回以上実施。 ・年3回特別支援研修会実施。 ・校内委員会が必要児童への個に応じた対応を決定。 ・担当によるエンカレッジルーム活用。 ・副籍交流の実施。	・校内委員会による支援や研修が有効と感じる教員90%以上。 ・個に応じた対応やエンカレッジルームの使用が有効と感じる教員90%以上。 ・参加児童が楽しかったと思える交流の実施。	B	B	B	・校内委員会は定期的に実施し、学校全体の支援体制を整えることができた。 ・教室に行きたがらない児童は、エンカレッジルームより保健室で過ごすことが多かったが、担当をはっきりとさせることにより、全教員が交代で対応できた。	・教室に行きたがらない児童にどんな対応をしているかがわかった。 ・人手不足はないのか。 ・今後も個に合った指導を全体で共有しながら支援体制を整えてほしい。	・特別支援委員会を中心に支援体制の充実を図る。 ・エンカレッジルーム担当者の対応研修を行い充実させる。	
	教員の資質向上	・教員研修の充実 ・日常的なOJTの充実 ・校内研究の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修 ・ミニ研修会を活用し、誰もが教える側と教えられる側を体験する研修の実現による教師力の向上 ・運動の楽しさや喜びを味わい3つの資質・能力を育む	・ラインズ支援を活用してタブレット授業の実施。 ・ミニ研修会1回以上実施。 ・教員同士の授業観察実施 ・研究授業年6回実施。 ・学年による授業研究6回実施	・タブレットを有効に使えたという児童90%以上。 研修したことを自己の職務に生かしたと感じる教員90%以上 ・体育授業が改善できたと感じる教員100%。	A	A	A	・教員研修は短時間で効率的に行なった。児童は授業でタブレットを日常的に活用し、様々なスキルが身に付けてきている。 ・体育を中心に研修会を実施することができた。 ・OJT担当を決め、計画的に研修会を進められた。 ・全教員が主体的に校内研究に取り組めた。 ・12月の研究発表会は、研究主任が中心となつて区内外の教員に成果を発表することができた。	・タブレットを活用できていてとてもよい。興味をひいていると思う。 ・今後も研修を通して指導力の向上を図ってほしい。	・情報部を中心にタブレット研修を充実させる。
	特色ある教育の展開	・ゲストティーチャーを活用した授業の充実 ・本物を直に感じることに児童の健全育成 ・美しい物に感動する豊かな感性の育成。	・ゲストティーチャーを活用した授業の充実 ・本物を直に感じることに児童の健全育成 ・自主性に任せた様々な詩の暗唱の実施により、言葉の感性を高めるとともに意欲の向上を図る。	全学年がゲストティーチャーを招いて本物の授業を体験する。 学校長による詩の暗唱(学期1回実施)	本物の素晴らしさを実感できた児童(感想による)90%以上。 合格児童100%。	A	A	A	・どの学年も積極的にゲストティーチャーを招き、視野を広げることができた。 ・2学期11はきものをそろえるの詩の暗唱に取り組み、全員合格を果たした。	・ゲストティーチャーの授業で視野を広げられている。 ・学習の場を広げることができてよい。	・今後も積極的にゲストティーチャーを活用する。
基本的な生活習慣と学習規律の確立	・学校全体で共通したルールで指導に当たること、基本的な生活習慣や学習規律を確立する ・家庭学習習慣の確立	・学校全体の共通目標の設置。 授業観察での具体的な評価の実施 ・家庭学習習慣の向上。	基本的な生活習慣や学習規律の向上が図れた学級100% 各学年の家庭学習目標時間の達成80%以上	B	B	B	・学習規律の向上は見られた。忘れ物は依然として多く、課題として残っている。	・家庭で生活リズムを作ることの大切さを感じる。	・常に振り返りを行い、課題を明確にして全体で指導にあたる。		
基本的な生活習慣の確立	・家庭学習習慣の確立	・家庭学習習慣の向上。	家庭学習キャンペーンの実施(学期1回)	各学年の家庭学習目標時間の達成80%以上	B	C	B	・2学期の家庭学習週間では、目標時間を達成した児童が80%に満たない学年が多かった。	・保護者への啓発を引き続き行うことで成果をあげてほしい。 ・学校に任せただけでなく、家庭・地域がない学年が多かった。	・保護者会で結果をもとに話し合い、家庭学習の習慣化を図る。	